

県教育委員会と連携した若年教員研修

香川大学教育学部附属高松中学校

香川大学教育学部附属坂出中学校

記載者 附属坂出中学校 副校長 小林理昭

1 概要

香川県では近年、大量退職の時代を迎え、若年教員研修の充実が急務となっている。ただ、新採、教職1年および5年経験者については県教委が研修を行っているものの、非常に重要とされる教職2年～4年経験者への研修が空白となっていた。そこで、平成25年度から、県内の2つの附属中学校が県教委と連携して若年教員への研修を行うことになった。具体的には教科ごとに年2回の研究授業を、附属中学校と公立中学校で各1回実施している。

2つの附属中学校の教員は、県内の公立中学校の全教員が参加する「香川県中学校教育研究会」の各教科部会の事務局を務めている。そのため2回とも中心となって運営にあたりるとともに、授業実践に基づいた討議や講話で若年教員への研修を行っている。

2 運営の実際

- ① 2経～4経までの受講者の名簿は、県教委の香川県教育センターが作成する。
- ② 各教科の事務局（附属中）が、「若年研修実施計画書」を作成して県教委へ提出する。
- ③ 香川県教育センターは県下の全公立中学校に、一括して案内文書を発出する。
- ④ 参加者のとりまとめは事務局が行い、参加者名簿を県教育センターに送付する。

この研修は悉皆研修ではないが、県校長会のご理解により、本務に影響がない限り参加することが定着してきた。平成28年度の参加者は右の通りである。

開催場所	対象者	参加者	参加率
公立中学校	174名	88名	51%
附属中学校	174名	110名	63%

3 成果と今後の展望

以前から、教科ごとに同好会として附属中学校に集まり、研修することはあった。しかし、それはあくまでも勤務時間外のことで、熱心な一部の教員が参加するもの



【若年教員への直接指導】



【新しい教具を試す若年教員】

であった。多くの若年教員にとって、附属は縁遠い存在だったのである。

この若年研修は、県教委と連携することで、勤務時間中に出張として参加できる。若年教員の6割が3年間にわたって附属中学校に来校し、授業を見て指導を受けている。当然、附属中学校の教員との人間関係も深まり、日々の授業で困っていることや、疑問点を気安く相談できるようになっている。長い教員人生のスタートで、「授業で困ったら附属に相談」という習慣が身につき始めている。今後とも、研修内容等のいっそうの充実を図りたい。